

TOPICS

未来を予測!

徹底解説
大阪市の財政

大阪の未来を語る
代表質問

2分で分かる
ポイント図解!
大阪都構想

いざ、成長の大阪へ!
go for the growing city OSAKA

令和2年度の大阪市の予算が示されました。大阪維新の会大阪市議団では代表質問や、委員会質疑を通して大阪の目指す未来の姿を議論しました。

大阪市議会議員
大阪維新の会市議団 代表

太内 啓治
おおうち けいじ



大阪の未来を語る
代表質問

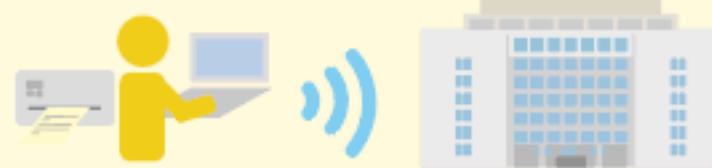
次世代スマートシティへの取り組み

技術の進展とともに、私たちの街も進化しています。大阪市では大阪府と協調し、ICTを取り入れた最先端の便利で暮らし易い街を目指して取り組みを進めます。

敬老パスをもっとお得に・便利に!

その中で、キャッシュレス決済（現金以外での支払い）が注目を集めていますが、高齢者には中々難しい面もあります。大阪維新の会では普段使い慣れた敬老パスで買物の支払いができれば、高齢者にも利用しやすく、ポイント還元などのメリットも

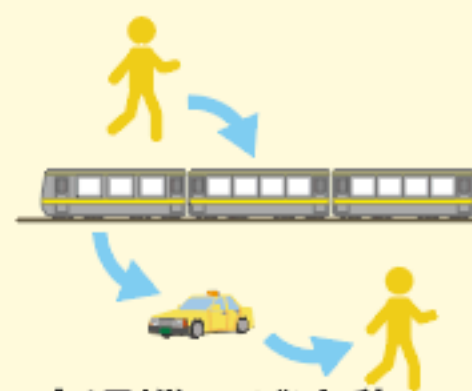
例えば、
将来…



役所に行かずに行政手続き



電子カルテで
患者の病状を共有



交通機関が連動し
待ち時間のない移動

受けられるため、高齢者へのさらなる福祉向上になると考え、議会で提案をしています。実現にはシステム改修も必要で、今すぐというわけにはいきませんが、実現に向け議論を始めています。



依然として厳しい将来見通し

今年2月に示された最新の財政収支見通しでは、引き続き改善傾向にあるものの、試算期間後半には扶助費の伸び等によって**財政赤字が拡大する**という大きな傾向に変わりはないことを確認しました。



POINT

私は2年前の市政報告で市の扶助費の見通しが同じ年(例えば2026年時点)でも年々増加していることを指摘しました。案の定、今年の見通しにおける2026年時点での扶助費推計は

6,536億円と、一昨年の見通しよりも**100億円以上、上振れ**しています。このままいけば2026年になった時の実際の扶助費はいくらになるのか…、**相当な覚悟と準備が必要です。**

◀ 2年前の市政報告書



未来に備える

大阪都構想

かつての反省を 未来への教訓に

かつて大阪市と大阪府の対立によって生み出された二重行政は大阪に莫大な借金を残し、将来世代に大きなツケを残しました。一方で大阪の成長に本当に必要な投資は戦略を一本化することができず先送りにされてきました。

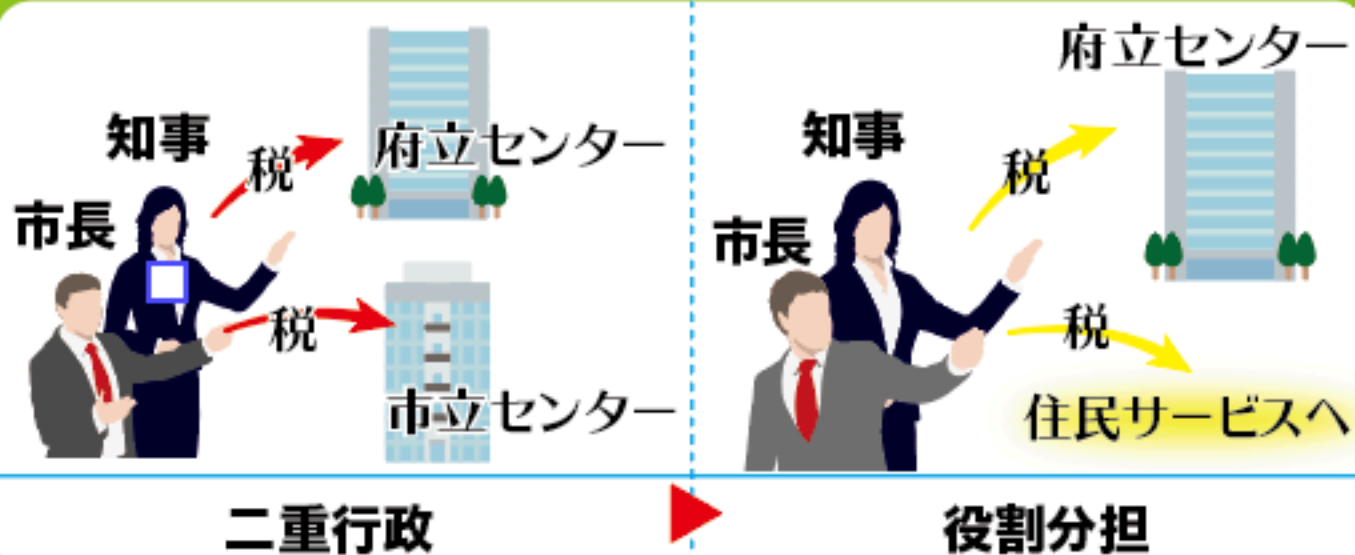
今後、大阪でも少子高齢化は急速に進み、何もしなければ将来の財政は厳しいという現実が数字で明らかになっています。政令市のままでも現在の住民サービスを維持できる保証はありません。私たちは過去の教訓から学び、二重行政によって無駄に費やされた税金を住民サービスに振り向けるとともに、政治の意思決定の一元化によって都市の成長と住民福祉の向上を実現するための大都市制度改革“大阪都構想”を議会で推進しています。

2分で分かる

大阪都構想ここだけ！図解！

現状（政令市制度）

大阪都構想（都区制度）



利害対立で政治が停滞

広域行政を決定



270万市民に一つの行政

4つの特別区

